



「麻依…いくよっ…ウツ…!!」

僕は麻依の膣内に射精し果てた…
男と付き合うのは僕とが初めてだと
言っていたのに、処女ではなかったのか？
という思いを飲みこみながら…



「…ごめんね麻依…僕…
下手くそだった…よね…?」

「ううん…達夫くん…
もう少しだけ…抱きしめていて…」

愛妻——麻依はある日を境に、
とてもうつろな顔をするようになった。

この表情を見せるようになる1週間前のこと——。

僕達夫は学生時代から麻依と清い付き合いをしてきたが、晴れて結婚することになった。



僕達は新婚だが、まだセックスをしたことがなかった。当然若い男女だ、欲望に流されそうなきは幾度もあったが…お互いを大切に思っていたからこそ我慢できた。

そして夜…僕は麻依と初デートの時に行った遊園地に誘った。

「今日はありがとう達夫くん…
私この観覧車から
あなたと見る夜景が…一番好き」

「僕もだよ……あのさ麻依」

「…はい」



「今日なんだけどさ…
その…君と…セックスが…したい…!」

「…うん…嬉しい…!」

観覧車の中で彼女を抱き締め、
深く優しいキスをした。
この晩、2人が迎える幸せな瞬間を期待しながら…。

「…麻依…こんな時に聞くことじゃないかもしれないけど…その…君を付け回してるっていうストーリーカーの件は…?」

「うん…もう一ヶ月近くになるし…警察に相談してみる」

「そうか…ゴメンね麻依
本当なら一緒に警察に行
ってあげたいんだけど…」

「ううん！気にしないで！
達夫くんは私のために遅くまで
一生懸命働いてくれてるんだから…
私こそ心配かけちゃってごめんね」



ピ。ピ。ピ。ピ。…！

「あっ…ごめん会社から電話だ…」

「ふふっ♪この辺で待ってるから…」

「ありがとう！すぐ戻る」

「…はあ…私…今日こそ…
達夫さんとひとつに…
嬉しいけど…うう…
緊張してきたなあ…
下着もキチンと選んだし…でも…」

「不安なら俺がチェックしてやるよ」

「むぐうつりん…!!」



「…ふはっ…! あ…あなたは…ストーカー…!」

「よう、麻依ちゃん…ひでえ言い方だなあ…
俺はあんたの魅力に惹かれてるだけなのにさア」

「た…たすけて…誰か!」

ドゴツ!



「か…はっ……!」

「オイオイ…あんま騒ぐとミンチにすんぞこのアマ!」

バキッ!ゴスツ!

「うっ…うっ…痛いっ…!!
わかりました…!だからもう…
殴らないで…ください…!」

「…ふーっ…最初から大人しくしてりゃいいんだよ…
じゃあ早速だけど〜♪服…脱ごうか!」

「えっ…!?!?そんな…嫌…です…っ!」

「なーに?聞こえね…また殴られてえのかコラ!」

「ひっ…わ…わかりました…!」



「おー…でっけえ乳してんねえ
麻依ちゃん…
やっぱもう勃起してきたわ…
オラッさっさと脱げや!」

「い…いやあっ…!!」

ドサツ!



「えっ…何をする気…
ですか……？」

「あー？男と女が裸になりや
やること決まっでんだろ！
セックスだよセックス！」

「そんな……！
いやあっ！やめて！
まだ…達夫くんとも
したことないのに！」



「あー？処女なのお!?
ラッキー!!んじや旦那さんより先に…
処女ゴチになりやーす!笑」

ずぷうつ!
ブチブチブチッ!!

「いっ…イヤアあああ!
痛いっ!痛いっ!いいいい!」



「うあーすっげー処女マンコ…
あーごめん俺の名前言ってなかったよね！
桜木って言いまーすヨロシクっ笑」

「えっ…えぐっ…ひどい…
ひどいよ…こんなの…
…うああっ…あああっ！」

「まー麻依ちゃんの人生
そんなもんってことで…
諦めて桜木くんのチンコで
気持ちよくなろうぜ♪」



ズツズツ！パンパンパンパン！
ずっちゅ！ずちゅっ！

「んう…っ！ひあ…っ
…や…だあ…っ！
やめっ…てえっ…！」

「うお…麻依ちゃん処女なのに…
もしかしてすっげえ名器じゃね？
結構俺も遊んできたけどコレヤベーわ
…もうイきそうっス」



「あっあっ……! 痛……い……っ……!!
やめ……て……っ!」

「ピストンやめてって?
うーんわかった!
じゃあガッツリ中出しすっから…
そろそろピストンやめまーす笑」

「なか……っ……う……やめて!!
中は……!! 赤ちゃん……出来ちゃう!!
ダメえっ……!!」



ぬぱんっ!ぱっちゅぱっちゅ!
ズッコズッコ!ズツパンズツパン!

「あゝダメッ!腰止まらねー!
イクイクイクッ!中出しするよー!
麻依ちゃん麻依ちゃん麻依ちゃん!」

パンパン
パンパン
パンパン
パンパン
パンパン
パンパン

「イヤ!イヤ!やめてえええええええ!」



どびゅっ!どっびゅうううううっ!
ぶびゅっ!ぶびゅるるるるっ!

「あああつ……!
そんな……中に……
出され……で……」

「ふいっ……やっぺー
クッソ搾られた……
やっぱ犯すなら処女だわ」

「うっ……ひぐっ……
助け……でええ……っ……」

「あーこりやアタリ引いちゃったよ俺……
麻依ちゃんさーこの後俺の友達んとこ
連れてくけどお……いいよね?
……ってシヨツク受けちゃって聞いてねーか笑」



「ビューッ！桜木さん
マジで女連れてきたよ！」

「ウエーイ超可愛いジャーン♪
俺、龍二って言うんだ
ヨロシクね♪」

「おいテメーら勝手に触んなよ！
賭けた金払わねーと
やらせてやんねーぞ」

「ハイハイ賭けの1万ね！
怒んないでくださいよ桜木さん」

「はーっ…ラブホについて来る女なんていねーよ
って思ったけど負けましたわー笑」

「逆に1万でやれると思えば安いだろこの子…
あーめっちゃタイプだわー！チンコビンビン」

「誰…このひと…たち…?」



「おー麻依ちゃん！状況わかるようになったかなー？
今から俺の友達とー…生ハメパーティーしちゃいまーす！
ギャハハハハ！」

「なま…はめ……？まだ…おうち…帰れないの…？」

「ねー桜木さん大丈夫かよこの子？
薬とかキメさせてないっすよねーまさか」

「そりゃーゴツツイ男5人に囲まれたら
怖くて子供みてーなことしか言えないっしょ笑」

「あーもうチンコやべーわ！早くやろうぜ」



「おら麻依ちゃんだっけ？
桜木さんから話は聞いてたぜ♪
そのデケえ乳でパイズリしてくれや」

「オラッケツ出せ
豚女！殺すぞ」

「こつちも舐めてねー♪
まあ5本もあるから
ゆっくりやろーうねー笑」

「うおーすっげえ
爆乳人妻じゃん！
今日は気絶するまで
ハメてやつからな」

「こんな上物の奥さん
ナイシヨで食べられちゃう
とか旦那さんカワイソー笑」



ずちゅっ！パンパンパンパン！！

「…あっ…ああっ…んっ…」

「えっ麻依ちゃん
もしかして
感じてる？」

「マジかよ
淫乱か！」

「さっき処女貰ったのは
俺だからなく覚えとけよ
麻依ちゃん♡」

「うおっすげえパイズリ…
手使わないでこの乳圧
ワイルドクラスだわ」



ずぱんっ！ばちゅん！
ズツズツズツズツズン！！

「あーやつべ…そろそろ出すぞ！」

「あっ…ああっ…うあっ…」

「スケベすぎるよ
麻依ちゃん…出すぜ！」

「あゝ髪の毛ユキやべえわ
出る出る出るっ！」

「オラっ舌出せ豚ア！」



びゅぐぐうっ!!
どびゅるるるるっ!!
ぶびゅるるるる!

「あっ...!!
いやああああっ!!」

「ふー...さあて
まだまだ終わらねえぞ
麻依ちゃんよおい笑」

「いやあこれ何回でも
出せそうだわ」

「ヤリチン5人に
ハメられまくって
死ぬなよ麻依ちゃん
ギヤハハハ!!!」



翌朝——麻依は帰ってきた。

「麻依！心配したよ……どこ行つてたんだい!？」

「達夫……くん……えつと……ね……私……実……は……っ」

「?何……?何かあったの?」



「うっ……ううん……!ばったり……同級生に会つて……
その……盛り上がっちゃつて……」

「そ……うなの?顔色……すごく悪いけど……」

「……飲み過ぎ……ちやつて……それで……迎えに来てもらうのも
悪いし……泊まってきたの……」

「麻依がお酒なんて珍しいね……今日は僕も休みだし
ゆっくりしてなよ」

「うん……ありがとう……達夫くん……」

そして1週間後

現在

「おう麻依！テメーやる気あんのか？
マジで今までのハメ撮り動画全部
旦那の会社にバラまくぞ」

「そ…それだけは！
あの人だけは…
巻き込まないでください…桜木様っ！
ちゃんと…ご奉仕しますから……」



「つたく最初から素直に言うこと聞けや豚が！
まずはデメーを公衆便所として
調教してやつから…大事な金ヅルだからな笑」

「桜木さん…ほ…本当に
俺たちでこの子好きにしても
いいんすか…？ホームレスですよ
俺たち…へへへっ…」

「あ、しつかり可愛がつてやれ
そのかわりまた街でイイ女見つけたら
ソッコー俺に教えんだぞ？」

「当たり前じゃないっすかあり
この麻依ちゃんだつて俺らが
町で見かけたのを教えたんだし…うああ…
憧れの麻依ちゃんが俺のチンコ握ってるよオ…」



「お…おふたりの
おちんちんを…
麻依の手コキで
気持ちよく…
しますね…」

シユツシユツシユツシユツ
ちゅこつ♡ちゅこつ♡



「うおおおっ…
ヤバいですぞこれはあー!」

「ゆ…油断したら
すぐ射精されちゃう…
麻依ママあ…♡」

「へっよかったなあ麻依…
好评みたいだぜお前の手コキ」

「は…はい…光栄です…
もっとおちんちん…
気持ちよくなってくださいね…」





しゅこっ♡ちゅこっ♡
にゅちゅっ♡しこしこしこ♡

「ああ…俺もう…!」

「うぐう…麻依ママ…
こっち見て…
褒めてえ…!」

「はい…おふたりとも
カリ高ちんちんとっても
硬くて…ステキですよ…♡」

「出るっ!射精するよ
麻依ちやああん!!」

ぶびゅるるるっ！
どくんっ！どびゅるるるるるるるるるるっ♡

「あつ……すごい……ニオイ……
いっぱい出してくれて……
ありがとうございます♡」

「麻依、教えた通りよくできたじゃん♪
じゃあそろそろ人数増やして……
生中出し便所ご奉仕頼むぜえ笑」



「そ…それじゃあ入れるよ…
麻依ちゃん！」

ずつつぷうつ！！

「あ…があっ!？」

「うわあ…
すごい名器ですな
麻依ちゃん…
そいつのデカマラ
入っちゃうの…!」

「死んじゃわないよね？」



パン！ばっちゅん！
どちゅんっどちゅんっ
バンバンバンバン！！

「ぐぎやあつ…?!
んあああああつ!!」

「ああゝ感動ですよ
麻依ママ…
ヒダヒダが
ちんちん
包んで
くれてるよお」

「めっちゃエロい…
麻依ちゃんの
旦那さんが羨ましい」

「いやいや、僕たちに
犯されちゃってるから
…アハハ」



「まずは1発目中出し…
行きますぞお、おっ！」

「イヤっ！イヤっ！
しんじやううう!!
あんあんあん！」

パンパンパンパン!!
びくんぱんぱん!!



「は……はいい……
私に……いやらしい
麻依のおトイレまんこに……
皆様の高貴なおちんぼみるく
中出ししてくだしゃいいい♡」

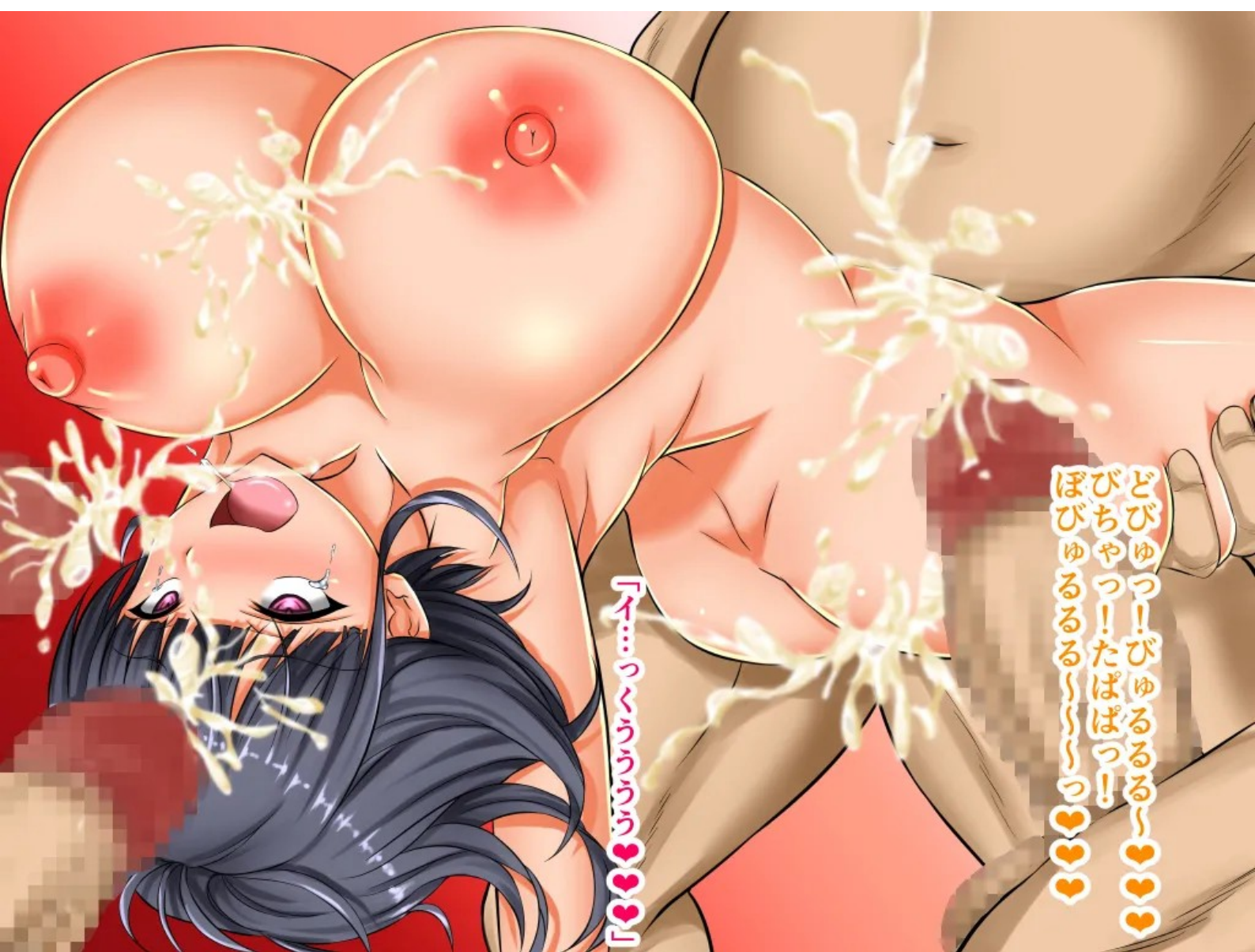
ぱちゅん！パン！
パン！ズッズッズッズッ！！

「ダメだよ……！
そんなエロい
セリフ言われたら
また中出し
したく
なりますぞお！」

「ああ、ヤバイ
僕達もぶっかけ
したいっ！
するよ！」

「エロおっぱいと
可愛いお顔で
受け止めてええ！」







「さうして麻依…調教出来てきたし
いよいよA-Vデビュー」だな！
…頑張っつて俺のために
稼いでくれよう…ヒビヒツ」

1か月後：あの夜以来僕ら夫婦は
まったくセックスをしなくなった：

：というより：麻依が
家を空けたまま帰らない日が
増え：僕は心配と同時に不満を
募らせていた。

そんなある日：麻依の携帯から
とんでもない動画が送られてきた……

それは僕に激しい悲しみと後悔を
与えるモノだった……



「お…おほっ♡♡♡
達夫くん…んおっ…♡
元気ですか…?
私は…見ての通り…
男優さん達にエッチを
教わってまあす…ほおおっ♡」

「ハハッ…ひっでえ…笑
旦那さん見えますか？」

「うわ…麻依ちゃん…
さすがにその表情は
商品にできないから
撮影本番では控えてね笑」

「しっかし桜木クンも上玉
見つけてくれたよねえ…
最近の女優はハメ甲斐
無いし助かるよ」



なんだ…なんだよこれっ…
麻依っ！麻依いいいいっ！

「っわけで旦那さん…
この子は僕らが責任もって
育てるんで…新しい女の子
探してね♪」

「うおっすっげーこのおっぱい
ちんこ吸い込まれちゃうよ」

「そーいや先輩ー！
桜木クンでは麻依ちゃんに
飽きちゃって別の子
調教してるらしいっすよ」

「へえ…俺らが言うのも
アレだけど麻依ちゃん
俺らのとこに来て
正解だよ！今度社長に
紹介してあげるから」



「はひっ♡ありがとうございませゅ♡
んおっ♡おとおおっ♡♡♡
おっばいイっちゃうよおおおっ！」

「おいおい♡
おまんこも
しっぴかり
頑張ってね」

ズン!
パンパンパン!!
ぱっちゅん!ぱっちゅん!

「イクっ♡♡♡イきませゅ♡♡♡
おまんこイっちゃいませゅ♡♡♡
ううう♡♡♡」



びゅぐぐう~~~~っ♡♡
どくどくん!どびゆる~~~~っ!!

「んあっ♡♡
あへええええっ♡♡」

「あーすげえイきつぷり…
ちよつとはカメラ映り
考えよーよ笑」

「へばってる暇ないよ麻依ちゃん
次は3穴責めだよー!!
旦那さんも応援ヨロシクっ笑」



「麻依…そんな…最近様子がおかしかったのは…
こういうこと…だったのかよ……！」

どれだけ後悔しても
幸せな日々は戻ってこない。
思えば先月…ホテル街で突然消えた時も…
別のオトコと会うためだったのかもしれない。

「ストーカーがいたっていうのも…
全部男遊びするための方便だったって
こと…だったのか……？」

僕は最愛の妻が淫らに腰を振る様を見て
失望と同時に、幸せだった二人の時間が
完全に失われたことを実感し、絶望を感じていた…





「は〜い麻依ちゃん
お待ちかねの
3穴プレイですよ〜」

「オラっしやぶれ!!」

「ぐむうううっ!!」

「ああ〜…気持ちいいよ
最高の尻穴だわ締め付けスツゲ…」

どどパン
どちゅぱぱ
どちゅっつン
♡!!

ずっちゅずっちゅ!
ズツズツズツズツ!!

「ぐぼっ...じゅぼっ...♡♡♡
男優さんたちの
おちんちん...♡♡♡
しゅごいです...じゅぶぶっ♡♡♡」



「いや、すごいよ
麻依ちゃん
女優の才能
あるよ」

「ありがとう…
ございますう…
ぐぼっ♡じゅるる♡」

「桜木クンには
感謝だよ…
こんな金の卵
見つけてくれてさ」

「ほらおまんこもつと締めて…
ロ○の売上次第じゃ社長の
ペツトにしてもらえるかもよ？
そうすりゃ一生安泰だよ麻依ちゃん」



「しっかし
スケベな
フェラだ…
これじゃ
遅かれ早かれ
旦那さんも愛想
つかすわ」

「アナルも開発してあげるからねー
オラ豚麻依！しっかりマンコ締めろや！」

「ふあ…ふあ…
もつと…突いてえ♡♡♡」

「いやあこんな淫乱
おまんこを新品のまま
放置してた旦那さんが
信じられないよ…
据え膳他の男に
喰われちゃったね？笑」



「やっべ俺
そろそろ
中出しキめるわ」

「おらバキュームしろ
この便器！」

「イってイって♡♡♡
おちんぽイってええええええ！」

パンパンパンパン!!
ずっぱんずっぱん!!
ばちゅっ!ばちゅっ!
ばちゅっ!

「俺も...出すよ!!
麻依ちゃん!!」





びゅぐぐぐうっ!!
どびゅるるるる~~~~っ
ぽびゅっ!どぶっ.....♡

「あっ...あああ~~~~っ...♡」

：僕と麻依は結婚から半年という短さで離婚した…
原因は妻の浮気…ということで一段落させた。

しかし…それが僕の身勝手な誤解だったと
気付いたのはそれから間もなくのことだった…。

「…？なんだこのメール…」

いつも通り仕事をこなしながら
パソコンでメールチェックをしていると
『桜木』という人物からメールが届いていた。

「誰だろう…取引先の人…だったかな…？」

恐る恐るそのメールを開くと…本文は無く、
動画ファイルのみが添付されていた…。
その内容こそ、僕の過ちの証明だったのだ。

「は〜い達夫くん見てますかア?笑」

「た…達夫…くん…たすけ…で…え…………!!」

「オラっ喋ってんじゃねえぞ
首ブチ折るぞアマあ!」

「さっき達夫くんとはぐれた麻依ちゃんは
無事処女卒業できました〜!
お相手は桜木さんです笑」

「ちなみにいま動画撮りながら
パイズリしてもらってるのが
この俺桜木です!達夫くん!
奥さんのデカパイやべ〜わ笑」



そんな…じゃあ麻依はこの
桜木ってやつに…さらわれていたのか…!!

「あんなホテル街で
奥さんと離れちゃダメっすよ
達夫くん…まあおかげで
上物ゲットできたから感謝だけど！」

「達夫くん…痛いよ…怖い…よお…」

僕は…それも知らずに…麻依のせいにして…
あの時してたうつろな表情は…僕を…
巻き込まないようにする…ための…うう…っ！



「まあこの動画をアంతタのところに
送るころには麻依ちゃんも
幸せにどつかの金持ちの
ペットになつてゐるだろうからさ…
心配しないでいいよー！ギャハハハハ！」

「うおっすっげえパイズリ…
もう射精するぞおおおお！」

「俺も！顔に
ぶっかけるぜええ！」

「イヤ…っ！イヤああああ…っ！」



びゅぐぐるるるっ!!
どっぴゅうううっ♡♡♡

「はくッッッ:
すっげえ搾られた」

「まあっーことでアంతタの奥さんは
これからマンコに生中出して調教してくから…
お礼としてこの動画見てシコっていいよ笑」



「はーいご開帳〜♪
早速ぶち込むぞお！」

ズプズプっ…ぶっちゅうううう！

「んあっ…うああっ…!!」



「うっひより桜木さん
この女のマンコ最高っすね」

「だろ？さっき処女膜
ブチ破ったばかりだから
新鮮っしょ笑」

パンパンパンパン！！
にゅっぱん！にゅぱん！！
ずっぱん！ズッズッズッズッ！！



「あぁっ…達夫くん…
たすけ…て…」

「あゝ？旦那がここ来たとしても
ボコボコにしちゃうより？
俺ボクシングやってるしパンチエグいよ笑」

「ビュースっげえもう出る出る！
出すぞ麻依ちゃん！」

「いやっ…やめ…てえ…っ！」



ぽびゅるるるるっ♡♡♡
どくどくっ!どっぶううう!

「イヤあああああっ!!」



「オラっ休んでんじやねえぞ！
次のチンコぶち込め！」

「ウェーイ!!!」

ぶちゅっ!ずぶ。ううううっ!



「んおおおっ!!
痛い…痛いよおっ…!!」

バツスンバツスン!
ばっちゅんばっちゅん!
ズッコンズッコン!



「やっべもう出ちゃう笑
麻依ちゃん出るすぜエエエ！」

「やだやだやだああああ!!」

「うるせえ!
イけ豚あああああ!!」



どっびゅるるる！
ぼびゅん！ぶびゅうううううう！

「んあああああつ!!!」

「気絶するまでハメるっつつたろ
この便所女！オラどんどんハメろや！」



男たちの暴力的なレイプは
3時間以上続き…僕はその映像を見ながら
ただただ…涙を流して後悔するほかなかった…

「ごめん…麻依…
僕は…君を…信じてあげられなかった…
守ってあげられなかった…ああ…ああああ…！」

「はー…まあこんなもんか…
っーかこいつ生きてんの？」

「しらねー腹減ったし
牛丼でも食いに行こうぜ」

「桜木さんこの女どうすんの？」

「あー？まてキトーに遊んだら
調教してA/V事務所にでも売るわ」

「うっわり鬼畜っすね笑
それまで俺らも遊ばせてくださいね」





「達夫…くん…えへ…えへ…えへへへ…
ぐすっ…ふへへ…」

…麻依は…
こうして…
壊されたの…
だった

そして…1年後…





「ピースして麻依ちゃん...
ぐっふふ...そうそう...
可愛い子猫ちゃんだね...
もつとおっぱいは突き出して
カメラにアピールして!」

「は...い社長♥
こうですか?」

パシ
パシ
ヤツ
ヤツ
!

「しかし君も苦勞してきたんだねえ…
うちの男優からひどいことされなかったかい？」

「ちよつと痛かったけど…
社長と出会えたから
全部気持ちいい思い出
でえす♡♡♡」

「嬉しいねえ…
べろお…じゅぞぞっ」

「あん♡♡
社長ってばくすぐったいですよお♡」



「こっやってふたりの愛の記録を
増やしていこうねえ…
さあて今日はどんなプレイがいい？
屋外輪姦かな？ 銭湯で乱交かな？
ファン感謝バスツアーもいいねえ…」

「うふふ…社長が
お仕事の後におちんちんで
ご褒美くれるならあ…
麻依はどんなプレイでも
撮影しますよ♡」



「麻依ちゃん：フヒヒ！
それじゃ早速
今から練習つてことで…
生中出しキめようか？」

「はあい♡
おちんちんみるく
たくさんくださいね…♡♡」



